

**教育に関する事務の管理及び執行の状況の
点検及び評価に関する報告書**

対象年度 令和元年度

令和2年10月

和歌山市教育委員会

— 目 次 —

I	はじめに	1
1	教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施について	1
2	点検及び評価の実施方法について	1
3	議会への提出及び公表について	1
	別記① 和歌山市教育振興基本計画	2
II	令和元年度教育委員会の活動状況	5
1	教育長及び教育委員	5
2	教育委員会会議の開催状況	5
3	教育委員会会議議案一覧	6
4	教育委員会会議以外の主な活動状況	10
5	教育委員会の活動状況の評価	10
III	点検及び評価	11
1	自己評価	11
2	和歌山市教育委員会事務評価委員会評価	57
IV	その他	61
1	教育委員会の組織	61
2	教育費決算額	62
	① 令和元年度教育費決算額内訳	
	② 教育費決算額の推移	
3	関連法令等	63
	① 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)抜粋	
	② 和歌山市教育委員会事務評価委員会条例	
	③ 和歌山市教育委員会事務の点検及び評価実施要綱	
	④ 和歌山市教育委員会事務評価委員会の委員選任に関する要綱	

I はじめに

1 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施について

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、「教育委員会の責任体制の明確化」を目的として、同法に「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等」が規定されました。

この規定により、平成20年4月から、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することが定められました。

2 点検及び評価の実施方法について

令和2年度に実施する点検及び評価は、令和元年度事業を対象とし、第2次和歌山市教育振興基本計画の基本理念である「ともに学び ともに支えあい 未来につながる教育」の実現に向け取り組んでいる5項目の基本方針、11項目の基本目標及び26項目の基本施策を推進するための具体的な取組51項目のうち、市長が管理し、及び執行することとなった「芸術・文化の振興」、「文化財の保護・活用」及び「スポーツの振興」に係る7項目を除いた44項目を整理し、取組の成果と課題等をまとめるものとします。

また、教育に関する有識者による外部評価については、和歌山市教育委員会事務評価委員会において幅広い視点から事業内容を検討し、個々の事業の課題や今後の方策・方向性等について点検・評価を行い、意見聴取を行います。

3 議会への提出及び公表について

本報告書は、点検及び評価の結果をまとめたものであり、市議会へ提出するとともに公表することにより、透明性を高め効率的・効果的な事務改善に努めたいと考えます。公表に際しては、和歌山市教育委員会ホームページに掲載します。

http://www.city.wakayama.wakayama.jp/kurashi/gakkou_kyouiku/1000076/1000349/1001002.html

別記①

第2次和歌山市教育振興基本計画（2019年度～2023年度）

基本理念

ともに学び ともに支えあい 未来につながる教育

教育の根幹は『人づくり』であり、その『人づくり』の基盤となるものは、学校だけでなく、家庭や地域を含めた社会全体と考えます。そこで、子供だけでなく、子供たちと共に過ごす家庭や地域の方々も一緒に学べる環境をつくり、地域のつながりをより強くします。また、様々な知識や経験を持った方々が結びつき、支えあうことによって、地域における課題解決や地域の発展につながることでできる社会をつくれます。

これらの取組を通して、社会全体で将来の和歌山市を創造できる人を育てる教育をめざし、これを基本理念とします。

めざす人間像

○ 自ら考え、判断し、表現する力を持ち、規律ある行動をする人間

変化の激しい現代を生きていくために、基礎的な学力はもちろん、自ら考え、判断し、表現する力を身に付けた上で、社会の一員としての自覚を持って規律ある行動をとることのできる人間の育成をめざします。

○ 人権を尊重し、情操豊かにたくましく生きる人間

いじめや暴力などの問題行動をなくすために、生きることの尊さを理解し、自他の生命を大切にすることを育みます。また、様々な人権問題を正しく理解し、互いの立場を理解し、よりよい人間関係を築ける人間の育成をめざします。

○ 郷土を愛し、よりよい社会の形成者となる人間

自ら育った地域の歴史や文化のよさを知り、郷土を愛する心を育みます。また、ふるさと和歌山の地域の一員として、主体的に社会に貢献できる人間の育成をめざします。

基本方針

I 社会を生き抜く子供たちの学力の育成

- ・ 確かな学力を育む教育の推進
- ・ 国内外の多様な分野で活躍できる人材を育む教育の推進

子供たちが毎日をいきいきと過ごせるよう、また、将来の夢や目標を実現するために必要な「確かな学力」を身に付けられるよう、信頼と期待に応える学校づくりに取り組みます。

さらに、日々変化していく情勢や国際化社会に対応できるよう、学力の向上だけでなく、資質や能力を伸ばし、たくましく生き抜く力を育みます。

II 生涯を通じた豊かな心と健やかな体の育成

- ・ 豊かな心を育む教育の推進
- ・ 健やかな体を育む教育の推進
- ・ 人権を尊重する社会を築くための教育の推進

人権・同和教育や道徳教育を推進し、体験活動を充実させることで、子供たちの豊かな心を育みます。また、子供たちの体力向上や健康の保持増進を通して、生涯にわたって健康で安全に生活できるような健やかな体の育成に取り組みます。

III 安全・安心な教育環境の整備

教育や学習方法の多様化に対応した施設、設備の充実を図るとともに、安心・快適に過ごせるように教育環境の整備や充実を図ります。また、校外においても、安全に過ごせるよう、地域や家庭、関係機関と連携して、子供たちを見守る環境づくりを推進します。

IV 家庭や地域における教育力の向上

子供たちが基本的な生活習慣や自立心を身に付けるように、家庭での教育力の充実を図ります。また、地域における社会教育の拡充を支援し、学校・家庭・地域の一層の連携を図ることで青少年の健全育成に努めます。

V 郷土に誇りと愛着を育む文化・スポーツの振興と生涯学習の推進

- ・ 生涯学習の推進
- ・ 芸術・文化の振興
- ・ 文化財の保護・活用
- ・ スポーツの振興

地域の拠点となるコミュニティセンターを中心に、生涯学習環境の整備、充実を図るとともに、生涯を通じて文化・スポーツ活動に親しめるよう、環境の充実を図ります。

計画の体系

基本方針	基本目標	基本施策
I 社会を生き抜く 子供たちの学力の育成	1 確かな学力を育む 教育の推進	1-1 教育課程の充実と学力の向上 1-2 信頼と期待に応える学校づくりの推進 1-3 学校の組織力と教職員の指導力向上
	2 国内外の多様な分野で 活躍できる人材を育む 教育の推進	2-1 国際化・情報化に対応した教育の推進 2-2 高等教育機関との連携強化
II 生涯を通じた豊かな心 と健やかな体の育成	3 豊かな心を育む 教育の推進	3-1 道徳教育の充実 3-2 郷土を愛するふるさと教育の推進 3-3 文化芸術教育の充実
	4 健やかな体を育む 教育の推進	4-1 学校体育の充実 4-2 健康教育の充実 4-3 食育の推進
	5 人権を尊重する社会を築くた めの教育の推進	5-1 人権・同和教育の充実
III 安全・安心な 教育環境の整備	6 安全・安心な 教育環境の整備	6-1 子供たちの安全の確保 6-2 学校教育環境の整備 6-3 学校の勤務環境の整備 6-4 学校適正規模化の推進
IV 家庭や地域における 教育力の向上	7 家庭や地域における 教育力の向上	7-1 家庭における教育力の充実 7-2 地域における教育力の充実
V 郷土に誇り と愛着を育む 文化・スポーツの振興 と生涯学習の推進	8 生涯学習の推進	8-1 生涯学習の啓発と機会の提供 8-2 生涯学習の場の整備・充実
	9 芸術・文化の振興	9-1 芸術・文化活動の推進 9-2 芸術・文化活動環境の整備・充実
	10 文化財の保護・活用	10-1 文化財の保護 10-2 文化財の活用
	11 スポーツの振興	11-1 生涯スポーツの振興 11-2 スポーツを通じた地域振興

II 令和元年度教育委員会の活動状況

1 教育長及び教育委員

(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

役職名	氏名	就任年月日	任期
教育長	とまつ あつし 富松 淳	令和元年10月3日	令和元年10月3日～令和4年10月2日
教育長	はら かずき 原 一起	平成24年10月1日	平成24年10月1日～平成28年9月30日 平成28年10月1日～令和元年9月30日
教育長職務代行者	ふじもと さだお 藤本 禎男	平成28年10月1日	平成28年10月1日～令和2年9月30日 令和2年10月1日～令和6年9月30日
委員	もりさき ようこ 森崎 陽子	平成28年12月15日	平成28年12月15日～平成31年3月28日 平成31年3月29日～令和5年3月28日
委員	はとこ まさのり 波床 昌則	平成29年10月22日	平成29年10月22日～令和3年10月21日
委員	うちた まさこ 打田 雅子	平成30年12月28日	平成30年12月28日～令和4年12月27日

2 教育委員会会議の開催状況

月日	議案	報告	案件	月日	議案	報告	案件
4月4日	3	2	0	11月18日	13	1	0
5月9日	6	3	0	12月11日	3	1	0
6月6日	2	2	0	12月19日	2	2	0
7月11日	3	2	0	1月10日	2	2	0
7月18日	2	0	0	2月6日	8	1	0
7月26日	5	0	0	2月13日	1	0	0
8月2日	1	0	0	3月5日	12	2	0
8月8日	3	2	0	3月12日	1	0	0
9月2日	10	0	0	3月31日	3	0	0
10月10日	7	4	0				
				計	87件	24件	0

3 教育委員会会議議案一覧

月 日	
4月4日	平成31年4月1日付け人事異動について
	2月定例会市議会について
	和歌山市子ども・子育て会議委員の推薦について
	2020年度に和歌山市立和歌山高等学校で使用する教科用図書の採択について
	2020年度に和歌山市立小学校及び義務教育学校前期課程で使用する教科用図書の採択について
5月9日	和歌山市教育委員会事務決裁規則の一部改正について
	平成30年度和歌山市立和歌山高等学校卒業生進路状況について
	令和元年度和歌山市授業研究大会について
	和歌山市立学校等の児童、生徒等の災害共済給付に係る共済掛金徴収条例の一部改正について
	学校運営協議会委員の任命について
	令和元年度和歌山市教育委員会客員指導主事について
	和歌山市立幼稚園教員採用選考検査実施について
	令和2年度に和歌山市立小学校及び義務教育学校前期課程で使用する教科用図書の採択に係る調査員の任命等について
	令和2年度に和歌山市立和歌山高等学校で使用する教科用図書の採択に係る選定委員の委嘱及び任命について
6月6日	和歌山市立幼稚園教員採用選考検査について
	人事案件について
	旅館業法に基づく意見について
	令和元年度6月補正予算要求見積書(案)について
7月11日	行政財産の使用許可に関する使用料条例の一部改正について
	和歌山市立学校条例の一部改正について
	令和元年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について
	和歌山市いじめ・不登校問題に関する検討委員会委員の委嘱について
	令和2年度使用和歌山市立小学校及び義務教育学校前期課程教科用図書の採択について
7月18日	令和2年度使用和歌山市立和歌山高等学校教科用図書の採択について
	令和2年度使用和歌山市立小学校及び義務教育学校前期課程教科用図書の採択について
7月26日	和歌山市立博物館協議会委員の任命について
	和歌山市社会教育委員の委嘱について
	和歌山市民図書館協議会委員の任命について

	市民図書館の休館について
	令和2年度使用和歌山市立小学校及び義務教育学校前期課程教科用図書の採択について
8月2日	平成2年度使用和歌山市立小学校及び義務教育学校前期課程教科用図書の採択について
8月8日	6月定例会市議会について
	平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果の報告について
	令和2年度使用和歌山市立和歌山高等学校入学者選抜の概要について
	令和2年度使用和歌山市立中学校及び義務教育学校後期課程教科用図書の採択について
	令和2年度使用和歌山市立小学校及び義務教育学校前期課程教科用図書の採択について
9月2日	令和2年度使用和歌山市立和歌山高等学校各課程・学科の募集定員について
	令和元年9月補正予算要求見積書（案）について
	和歌山市立学校条例の一部改正について
	和歌山市立学校管理規則の一部改正について
	和歌山市立子ども支援センター条例の一部改正について
	和歌山市民図書館条例等の一部改正について
	和歌山市立和歌山高等学校非常勤講師等の報酬及び費用弁償支給条例の廃止について
	和歌山市立教育研究所規則の廃止について
	特別支援学級における令和2年度使用教科用図書について
	令和2年度使用和歌山市立小学校及び義務教育学校前期課程教科用図書の採択に係る教育委員会会議議事録について
10月10日	9月定例会市議会について
	公有財産引受けについて
	令和2年度使用和歌山市立和歌山高等学校入学者選抜実施要項について
	令和元年度花王音楽教育充実事業研究推進校の決定について
	和歌山市立小学校、中学校及び義務教育学校通学区域並びに学校指定に関する規則の一部改正について
	和歌山市社会教育指導員設置等に関する規則の廃止について
	事務の委任について
	和歌山市民図書館条例施行規則の一部改正について
	和歌山市民図書館条例施行規則の一部を改正する規則の一部改正について
	和歌山市コミュニティセンター条例施行規則の一部改正について
	令和元年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する報告

	書（案）について
11月18日	和歌山市公立幼保連携型認定こども園幼児教育・保育カリキュラム作成について
	令和元年度組織改正について
	和歌山市教育委員会公印規則の一部改正について
	和歌山市教育委員会職員の勤務時間等の特例に関する規則の一部改正について
	和歌山市教育機関組織規則の一部改正について
	和歌山市教育委員会が管理する個人情報の保護に関する規則の一部改正について
	和歌山市教育委員会教育施設管理規則の一部改正について
	和歌山市教育委員会事務局組織規則の一部改正について
	和歌山市教育委員会事務決裁規則の一部改正について
	和歌山市教育委員会教育長に対する事務委任規則の一部改正について
	和歌山市教育に関する事務の職務権限の特例を定める条例の一部を改正する条例案の意見聴取について
	令和元年12月補正予算要求見積書（案）について
	令和元年度和歌山市教育功労者表彰について
	人事案件について
12月11日	市民図書館跡地活用（案）について
	令和元年度組織改正について
	和歌山市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則の一部改正について
	和歌山市教育委員会事務決裁規則の一部を改正する規則の一部改正について
12月19日	令和元年12月19日付け人事異動について
	令和2年（2020年）和歌山市はたちのつどいについて
	令和元年度末教職員人事異動に関する方針及び努力点について
	人事案件について
1月10日	12月定例市議会について
	令和元年度和歌山市公民館フェスティバル開催について
	令和元年度和歌山市児童生徒文化奨励賞の授賞候補について
	令和元年度和歌山市川端龍子賞等の授賞候補について
2月6日	学校施設の改修状況について
	事務の委任について
	2020年度和歌山市学校教育指針について
	公立学校の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の公務災害補償に関する条例の一部改正について
	令和2年2月補正予算要求見積書（案）について
	令和2年度教育委員会関連の主要事業（案）について
	土地及び建物の取得に係る権利変換計画変更の同意及び負担金変更契約の締結に

	ついて
	令和2年度組織改正について
	人事案件について
2月13日	人事案件について
3月5日	事務の委任について
	令和元年度末退職校長に対する感謝状授与について
	旅館業法に基づく意見について
	和歌山市立博物館基本計画について
	和歌山市立博物館条例施行規則の廃止について
	和歌山市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規則の一部改正について
	和歌山市教育委員会教育長に対する事務委任規則の一部改正について
	和歌山市教育委員会公印規則の一部改正について
	和歌山市教育委員会教育施設管理規則の一部改正について
	和歌山市教育委員会事務局組織規則の一部改正について
	和歌山市教育委員会事務決裁規則の一部改正について
	和歌山市民図書館運営審議会委員の任命について
	令和2年度教科用図書採択に係る基本方針について
	人事案件について
3月12日	人事案件について
3月31日	和歌山市立義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置に関する規則の制定について
	人事案件について
	人事案件について

4 教育委員会会議以外の主な活動状況

実施日	訪問先・参加行事	内 容
8月7日	明日の和歌山市を築くジュニア会議	会議への出席
11月5日	市町村教育委員会研究協議会	情報交換会（分科会）への出席
11月20日 21日	和歌山県市町村教育委員会研修会 和歌山県市町村教育委員会連絡協議会 研修会	情報交換会（分科会）及び講演会への出席
11月23日	和歌山市教育功労者表彰式	式典への出席
11月26日	第1回総合教育会議	会議への出席
1月5日	はたちのつどい	式典への出席
2月7日	和歌山市児童生徒文化奨励賞表彰式	式典への出席
2月15日	公民館フェスティバル	行事への出席
3月31日	退職校長感謝状授与式	式典への出席

5 教育委員会の活動状況の評価

【評価】

定例及び臨時教育委員会会議の開催に加えて、学校訪問や各協議会への参加などを通じて教育委員としての必要な知識を深めるとともに、各種行事や式典へ出席するなど、多岐にわたり活発に活動することができた。

また、教育委員会会議においても各委員専門分野の視点から議案等に対する活発な議論を交わし、円滑な教育行政の推進を図ることができた。

【今後の取組】

学校訪問や教職員との意見交換などを積極的に行い、子供たちの学習環境の改善に努めます。

また、総合教育会議において、首長と教育委員会が重点的に講ずべき施策等について引き続き協議・調整を行い、より一層民意を反映した教育行政を推進します。

Ⅲ 点検及び評価

第2次和歌山市教育振興基本計画の施策体系に沿って、令和元年度に重点的に取り組んだ事務事業の状況とその評価を行った。

また、令和2年度の主な取組を明らかにした。

基本方針Ⅰ	社会を生き抜く子供たちの学力の育成
基本目標1	確かな学力を育む教育の推進
施策1-1	教育課程の充実と学力の向上

取組 1-1-①	学力の向上
----------	-------

○令和元年度の主な取組と評価

取組内容①	教員の授業力向上のための授業研修会を各教科で開催し、児童生徒が主体的に学ぶ授業研究を行った。また、全国学力・学習状況調査結果から市の成果と課題を提示し、各学校の実態に応じた取組を進めた。	
評価	成果	経験の浅い教員や若い教員が数多く授業研修に参加し、個々の教員の授業力向上につながった。また、全国学力・学習状況調査結果を各学校で分析し、児童生徒の課題対応につながった。
	課題	各学校の実態に応じた学力向上策、授業づくりが行いやすいように研修では意見交換を積極的に行っていく。
取組内容②	小学校入学後に児童がスムーズに学校生活を送れるようにスタートカリキュラムを作成し、児童の発達の特性に沿った学習を進めた。	
評価	成果	全ての小学校で、スタートカリキュラムを作成し、入学当初のカリキュラムを見直すことができた。
	課題	近隣の幼稚園だけでなく、保育所や幅広い地域から児童が入学するため、継続的な連携には工夫が必要である。

○成果指標・目標の状況

指標名	基準値(2017)	目標値(2023)	実績値(2019)
全国学力・学習状況調査 平均正答率の全国比	【小学校 2018】 国語 A ±0 国語 B +1 算数 A -1 算数 B ±0	小学校は各教科の全国比を+にする。	【小学校】 国語 -1.8 算数 +0.4

	【中学校 2018】 国語 A - 4 国語 B - 6 数学 A - 4 数学 B - 7	中学校は各教科 の全国比を 3 ポ イント以上縮め る。	【中学校】 国語 -6.8 数学 -5.8
--	---	---------------------------------------	------------------------------------

○令和2年度の主な取組

- ・各教科の授業研修会を開催する。
- ・幼小接続のためのスタートカリキュラムを活用する。
- ・家庭の学習習慣定着のための取組を行う。

○令和元年度の主な取組と評価

取組内容①		9年間を貫いた教育課程に改善した。
評価	成果	生活科からわかやま創造科への接続を見通した生活科の在り方や、最終学年である9年生の姿を見据えた学習の流れなどについて理解が深まり、より深い実践となった。
	課題	前期課程の研究の進め方と後期課程の研究の進め方の違いが残っており、足並みがそろわず、全員が同じ方向を向いた研究体制の構築が必要である。
取組内容②		施設分離型を見据えた小中連携教育の現状を把握、推進を行った。
評価	成果	中学校から小学校へ英語教員を派遣し、担任と協働して授業を行うことや、学校行事・地域交流を一緒に行うなど小・中学校間の連携が図られた。
	課題	加太中学校区や東和中学校区などの、中学校区と小学校区が同じである特定の地域のみでの取組であるため、更に検証を深め、他の地域でも実施の可否を検討して行くことが必要である。

○成果指標・目標の状況

指標名	基準値(2017)	目標値(2023)	実績値(2019)
小中一貫教育研究報告会の開催回数	4回	5回	4回

○令和2年度の主な取組

- ・伏虎義務教育学校の調査を継続する。

○令和元年度の主な取組と評価

取組内容	教科書採択関係法令及び「和歌山市立小学校、中学校及び義務教育学校教科用図書の採択に関する条例」に基づき、適正かつ公正に教科書採択を行った。	
評価	成果	令和元年度は小学校の全教科・種目の教科書の採択が予定通り実施された。公平性、透明性の確保のため様々な角度から事業実施について検討を行いながら進めることができた。
	課題	市役所及び各コミュニティセンターで行われる教科書展示会において多くの方からご意見をいただけるよう周知に努める。

○令和2年度の主な取組

- ・令和2年度に行われる中学校の全教科・種目の教科書の採択において、静謐な環境を維持しつつ適正かつ公正な教科書採択が行われるよう努める。

○令和元年度の主な取組と評価

取組内容①		図書コーナーや学級文庫の設置等、読書環境の充実とともに、学校図書館を活用した授業づくりについて研究を進めた。
評価	成果	授業内容の関連図書を集めた図書コーナーや学級文庫を設置する学校は増加傾向にある。読書ボランティア組織も増え、読書環境の改善が進んでいる。また、図書館教育研究会の公開授業に関わり、研究を進めることができた。
	課題	学校図書館司書の絶対数が不足している。 公開授業の参加者が少なく、市全体の研究推進には至っていない。
取組内容②		「うちどくノート」を活用し、読書後の感想を記録し、友達にお気に入りの本を紹介するなどの活動を行った。
評価	成果	「うちどくノート」を使った取組はすべての小学校で確認することができた。
	課題	国語科の学習内容と関連させた取組の普及促進を行う。

○令和2年度の主な取組

- ・市図書館教育研究会、学校図書館司書、市民図書館との連携による読書活動の推進を行う。
- ・国語科の学習内容と関連させた「うちどくノート」の活用の普及促進を行う。

○令和元年度の主な取組と評価

取組内容①	幼稚園・保育所・認定こども園合同研修に参加した。	
評価	成果	幼児期の教育・保育と小学校教育との円滑な接続を図るため、情報交換することができた。
	課題	幼児期の教育・保育と小学校教育との円滑な接続を図るため、今後も積極的に合同研修に参加する必要がある。
取組内容②	公立幼保連携型認定こども園において、0歳から小学校就学前までの子供たちに良質な幼児教育・保育を提供するため、「カリキュラム」の作成に協力した。	
評価	成果	「和歌山市公立幼保連携型認定こども園幼児教育・保育カリキュラム」について、保育教諭らに説明会を行うことができた。
	課題	今後、それぞれの幼保連携型認定こども園において、園の特色や地域性を踏まえた指導計画等を作成する際等に活用していく。

○成果指標・目標の状況

指標名	基準値(2017)	目標値(2023)	実績値(2019)
幼稚園・保育所・認定こども園合同研修参加園(所)数	17園(所)	27園(所)	54園(所)

○令和2年度の主な取組

- ・幼稚園・保育所・認定こども園合同研修へ公立幼稚園11園より参加する。

取組 1-2-① | 地域とともにある学校づくりの推進

○令和元年度の主な取組と評価

取組内容①	令和元年度には、和歌山市立の全ての小学校・中学校・義務教育学校に学校運営協議会を設置した。	
評価	成果	和歌山市立の全ての小学校・中学校・義務教育学校に学校運営協議会を設置した。
	課題	学校支援が主体である学校運営協議会を、学校運営について、地域と双方向に考えられる運営協議会をめざす。
取組内容②	学校運営協議会委員を対象に制度や目的についての研修会を開催した。	
評価	成果	令和元年度設置校の学校運営協議会委員及び既設置校の新規の学校運営協議会委員を対象に学校運営協議会の充実を目的に研修会を実施した。
	課題	学校運営協議会委員の担い手の確保や学校への参画を促すため、学校運営協議会について、保護者や地域住民等へ周知を図る。
取組内容③	コミュニティ・スクールの成果発表会を開催した。	
評価	成果	設置3年目の小学校2校、中学校1校の取組等を発表し、グループに分かれ各校の情報交換を行った。
	課題	運営に係る委員向けの研修会を充実させるとともに、学校運営協議会相互の情報交換の場を設けることで、活動の質の向上を図る。

○成果指標・目標の状況

指標名	基準値(2017)	目標値(2023)	実績値(2019)
学校開放月間中の来校者数	44,676人	55,000人	45,427人

○令和2年度の主な取組

- ・学校運営協議会委員を対象に制度や目的についての研修会を開催する。
- ・コミュニティ・スクールの成果発表会を開催する。

○令和元年度の主な取組と評価

取組内容①		発達障害等で困り感を持つ児童生徒に対して、学習や生活の支援等、個に寄り添った教育環境づくりを推進するために、特別支援教育支援員の配置を行った。また、特別支援教育専門員の巡回支援訪問により支援のあり方等の指導助言を行った。
評価	成果	学級担任だけではできない細かい対応や個別の支援が行き届くようになり、課題のある子供たちの学びの喜びや達成感、自尊感情が高まった。
	課題	学校や保護者のニーズに応えられるよう、すべての学校への特別支援教育支援員の配置と特別支援教育支援員の専門性の向上が課題である。
取組内容②		個に応じた指導支援を継続して進めていくために、学校が家庭や医療機関等と連携協力し「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」（つなぎ愛シート）の作成を推し進めた。
評価	成果	「個別の指導計画」による個に応じた指導支援ができるようになった。また、「個別の教育支援計画」が定着し、学年や校種を超えた指導支援が意識されてきた。
	課題	「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」の記載についての指示や助言を行い、より一層、個々の指導支援に生かせるものにしていくことが課題である。
取組内容③		平成28年度施行された「障害者差別解消法」を受け、教育の場でのインクルーシブ教育システム構築に向けた特別支援教育の充実が求められている中、就学指導での適正な学びの場の提供、教員の専門性の向上を図る研修の実施等を推し進めた。
評価	成果	就学指導では、355名の児童生徒について適切な就学先を判定することができた。また、教員の専門性の向上を図る研修を例年通り実施できた。
	課題	新任の若い教師や支援員が増える中、子供への関わり方や支援の手立てといった専門性を高めていくことが課題である。

○成果指標・目標の状況

指標名	基準値(2017)	目標値(2023)	実績値(2019)
特別支援教育支援員の配置率	58%	70%	58%

○令和2年度の主な取組

- ・特別支援教育支援員の配置及び特別支援教育専門員の巡回支援訪問をする。
- ・「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」（つなぎ愛シート）の作成。
- ・教員の専門性の向上を図る研修の実施。

○令和元年度の主な取組と評価

取組内容①	和歌山市いじめ・不登校問題に関する検討委員会で、いじめの未然防止、早期発見、早期解決のための方策の検討し、保護者や教職員向けの啓発リーフレットを作成、配布した。	
評価	成果	保護者からの各校への相談（スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーへの相談を含む。）や、子ども支援センターへの来所相談や電話相談につながり、学校と解決に向けての連携ができた。
	課題	携帯電話やスマートフォンの普及により、SNS 上でのいじめが増加しており、保護者や教職員等の周囲の大人がいじめを発見することが困難である。
取組内容②	スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置により、関係機関との連携を進めた。	
評価	成果	心理的不安への対応、環境への働きかけを行うことで、各校でいじめの背景や要因を分析し、適切な働きかけができた。
	課題	表面上に現れにくい、潜在的な問題への働きかけが必要である。
取組内容③	いじめの早期発見のため、定期的なアンケート調査や教育相談を実施し、児童生徒がいじめを訴えやすい体制を整え、心の不安や悩みを安心して発信できるような声掛けを大切にし、個々の実態把握に努めた。	
評価	成果	教職員のいじめについての意識が高くなり、小さいいじめでも早期に発見することができるようになってきている。
	課題	ネット上でのいじめについては、発見しにくいところがあるため、予防的な授業、いじめを許さない環境づくりをしていく必要がある。

○成果指標・目標の状況

指標名	基準値(2017)	目標値(2023)	実績値(2019)
いじめ問題の解消率	98.21%	100%	82.58%

○令和2年度の主な取組

- ・和歌山市いじめ・不登校問題に関する検討委員会を開催し、いじめの未然防止、早期発見、早期解決のための方策を検討する。
- ・スクールカウンセラーの全校配置、スクールソーシャルワーカーの全中学校配置により、いじめの要因や背景を適切に見立て、関係機関との連携を強化し、いじめ解消に向けての働きかけを強化する。
- ・定期的なアンケートや教育相談活動で、いじめの早期発見に努めるとともに、予防的な支援・指導に取り組み、いじめに向かわない態度や能力の育成等、いじめが起きにくい、いじめを許さない環境づくりに努める。

○令和元年度の主な取組と評価

取組内容①	スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置を拡充し、不登校の傾向にある子供の早期発見、早期対応を行い、不登校の未然防止に努めた。	
評価	成果	不登校を未然に防止するための相談活動や、要因を分析し、継続しての相談や、関係機関との円滑な連携ができた。
	課題	スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの限られた配置日数の中での効果的な活用が必要である。
取組内容②	小・中・義務教育学校を対象に各校1名の不登校対応研修と子ども支援センター見学研修を実施し、不登校への対応についての理解を進めた。	
評価	成果	不登校に関する相談件数が昨年度の222件から321件に増加し、適応指導教室（ふれあい教室）など、子ども支援センターでの支援につながった。
	課題	全教職員による不登校への理解、対応が必要であるため、継続した研修の開催を計画する必要がある。
取組内容③	適応指導教室（ふれあい教室）で、子供同士のふれあいや、体験活動を通じて集団への適応指導や生活指導及び学力補充を実施し、社会的自立や学校復帰に向けての支援を充実させる。	
評価	成果	引きこもりがちであった子供がふれあい教室への通級により、学校復帰につながるなどの改善が見られた。子供自身が目標を持ち、自己肯定感を高めることができた。
	課題	要因に発達障害が絡む子供が多く、個別対応を要するケースが多いため、効果的な支援を工夫する必要がある。

○成果指標・目標の状況

指標名	基準値(2017)	目標値(2023)	実績値(2019)
「ふれあい教室」への通級率	15.2%	25.0%	21.3%

○令和2年度の主な取組

- ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと教職員の連携による適切なアセスメントに基づき、不登校の未然防止、早期発見、早期対応に努める。
- ・子ども支援センター見学研修や不登校対応研修等を実施し、教職員の不登校への理解を深め、対応力を高める。
- ・適応指導教室（ふれあい教室）において、学校復帰や社会的自立に向けた学力補充や集団適応力を高める取組を充実する。

○令和元年度の主な取組と評価

取組内容①		子ども支援センターにおいて、来所相談、電話相談を実施した。
評価	成果	電話相談回数は昨年度の500回から622回に増加した。来所相談については、不登校に関する相談が昨年度の222件から321件に増加した。
	課題	相談が増加する中、相談員の数が限られているため、来所日の設定で数日待ってもらわなければならない事態が生じている。
取組内容②		相談員を対象にスーパーバイザーによる研修や事例検討を実施し、力量を高める。
評価	成果	子供が抱える問題が多様化、複雑化する中、専門的な研修、事例検討の実施により、効果的な対応ができ、学校復帰や親子の心理的な安定に向けた働きかけができた。
	課題	スーパーバイザーによる専門的な研修を拡充していく必要がある。
取組内容③		問題解決への支援が行き届くよう、学校、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、関係機関等と連携し、取組を進めた。
評価	成果	教職員だけでなく、心理や福祉の専門家の見立てや意見を入れることで、相談者の心の安定につながることができ、より専門的な関係機関と連携することで事態の改善を図ることができた。
	課題	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置日数が少ないため、適時に相談できないことがある。

○令和2年度の主な取組

- ・子ども支援センターにおいて、来所相談、電話相談を実施する。
- ・相談員を対象にスーパーバイザーによる研修や事例検討を実施し、専門的な技量の向上を目指す。
- ・学校、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、関係機関等の連携を深め、問題解決への支援体制を整える。

○令和元年度の主な取組と評価

取組内容①	交通安全教室や自転車の乗り方教室等を実施し、児童生徒への安全指導を行った。	
評価	成果	小学校においては、毎年、安定して交通安全教室の実施ができています。
	課題	交通安全教室を実施している中学校は半数程度であり、啓発が必要である。
取組内容②	通学路における安全確保のため、警察や地域の見守り隊等と連携した取組を進め、より安心安全な地域環境の実現に努めた。	
評価	成果	地域連携の場を設け、「第1回和歌山市登下校時安全推進会議」を行い、情報共有した。
	課題	今後も地域連携の場を設け、和歌山市の安全のために取組を続ける。
取組内容③	避難訓練においては、学校だけでなく、保護者や地域と協同した訓練を実施し、災害時に適切な避難行動がとれるよう取り組んだ。	
評価	成果	多くの学校において、保護者や園、地域と連携した避難訓練を実施することができた。
	課題	今後も連携した訓練が実施できるよう取り組む。

○成果指標・目標の状況

指標名	基準値(2017)	目標値(2023)	実績値(2019)
交通事故件数	小35件 中29件	0件	小25件 中24件
防災訓練の実施回数	182回	200回	166回
地域や他の学校園と連携した防災訓練の実施校数	29校	40校	45校

○令和2年度の主な取組

- ・中学校における交通安全教室を実施し、交通安全の啓発をする。

○令和元年度の主な取組と評価

取組内容①		就学援助制度により、経済的に困っている家庭に学用品費や給食費などにかかる費用の一部を支給した。 また、新入学学用品費については、新小1に対し前倒し支給を行った。
評価	成果	学用品費や給食費等にかかる費用の一部を助成及び新入学学用品費の前倒し支給を行ったことにより、保護者の負担軽減を図れた。
	課題	就学援助制度により、経済的に困っている家庭に学用品費や給食費などにかかる費用の一部を支給していく。
取組内容②		特別支援教育就学奨励費により、特別支援学級在籍児童生徒で世帯の収入が基準額以下となる者に対し、学用品費、給食費及び修学旅行費の費用の一部を支給した。
評価	成果	学用品費や給食費等にかかる費用の一部を助成したことにより、保護者の負担軽減を図れた。
	課題	特別支援学級在籍児童生徒で世帯の収入が基準額以下となる者に対し、学用品費、給食費及び修学旅行費の費用の一部を支給していく。

○令和2年度の主な取組

- ・就学援助制度により、経済的に困っている家庭に学用品費や給食費などにかかる費用の一部を支給する。
- ・特別支援教育就学奨励費により、特別支援学級在籍児童生徒で世帯の収入が基準額以下となる者に対し、学用品費、給食費及び修学旅行費の費用の一部を支給する。

取組 1-3-① | 専門教員の活用

○令和元年度の主な取組と評価

取組内容①	特別非常勤講師の制度は、専門的な知識や技術を有する講師やそれぞれの分野での経験が豊かな講師を招き、特色ある幅広い多様な教育を行い、学校教育の多様化への対応を行った。	
評価	成果	特別非常勤講師の配置時間の枠を200時間から223時間に増やすことができた。
	課題	事業内容を見直し、既存のゲストティーチャーによる講義を300時間に拡充させる。また、日本語指導が必要な子どもたちを対象に、外国人留学生による教育相談を50時間分実施していく必要がある。
取組内容②	問題行動への迅速な対応、暴力行為の低年齢化への対応、学習環境充実のための校内巡回、児童生徒への個別対応等、児童生徒一人一人の個性や学力に応じてきめ細かな指導が充実するよう、また学校運営が円滑に行われるよう、生徒指導補助員の配置校数35校を目標に計画的な増員を推進した。	
評価	成果	年度当初の4月と、問題行動が起きやすい長期休暇明けである10月と1・2月に時期を分割して生徒指導補助員の配置を行ったことで、限られた予算の中でより多くの学校へ生徒指導補助員を配置することができた。
	課題	時期を分割することで多くの学校に配置することができたが、依然学校からの要望は多い。学校現場において、総合的な生徒指導が充実するよう、より一層、要望と実態に即した予算要求と職員の配置を検討する。

○成果指標・目標の状況

指標名	基準値(2017)	目標値(2023)	実績値(2019)
特別非常勤講師配置時間	200時間	300時間	223時間
生徒指導補助員配置学校数	24校	35校	40校

○令和2年度の主な取組

- ・既存のゲストティーチャーによる講義を300時間に拡充させるとともに、日本語指導が必要な子どもたちを対象に、外国人留学生による教育相談を50時間分実施していく。
- ・依然学校からの配置要望が多いことから、より一層要望と実態に即した予算要求と職員の配置を検討する。

○令和元年度の主な取組と評価

取組内容①	臨時的任用教員から採用後10年を経過した教員、新任教務主任、新任教頭、新任校園長など教員のライフステージに応じて必要とされる基本的な資質・能力を育成する研修や、教科指導等の専門性を高める専門研修を行った。	
評価	成果	基本研修及び専門研修を年間64回実施し、のべ3463人の教員が研修を受講した。
	課題	時代の変化に対応した内容に研修を精選・拡充し、教員の専門性や授業力の向上を図る必要がある。

○成果指標・目標の状況

指標名	基準値(2017)	目標値(2023)	実績値(2019)
専門研修受講者数	1,074人	1,100人	1,137人

○令和2年度の主な取組

- ・新任の管理職に対しコミュニケーションスキルを向上させる研修や、初めて教壇に立つ講師に対し学級づくりや教科指導について学校訪問研修を新たに行う予定である。

基本目標 2	国内外の多様な分野で活躍できる人材を育む教育の推進
施策 2-1	国際化・情報化に対応した教育の推進

取組 2-1-①	英語教育・国際理解教育の充実
----------	----------------

○令和元年度の主な取組と評価

取組内容①	和歌山県国際人育成プロジェクト事業で、中学3年生全員の英語検定受験を行った。	
評価	成果	英検3級以上の所持率が、平成30年度の30.1%から、令和元年度は36.1%に上昇した。
	課題	英検受験のための学校での事前指導や、動機付け、受験級の設定などが十分ではない。
取組内容②	生徒の発信力強化のための英語指導力向上事業（英語教育改善プラン推進事業）における事業で効果的な英語及び外国語活動の指導についての研究を進め、教員の指導力の向上を図った。	
評価	成果	研修を重ねることで、小学校・中学校の外国語担当教員が、新学習指導要領の外国語教育をさらに深く理解し、業改善に向けての意識が高まった。
	課題	学校、教員によって授業力の差があること。
取組内容③	姉妹都市であるカナダのリッチモンドから生徒36名、引率教員8名の合計44名が和歌山市に訪問し、学校訪問やホームステイを通じて交流を深めた。	
評価	成果	学校訪問では多くの児童生徒と交流することができ、国際理解を実体験することでより学習できた。
	課題	和歌山市全校に案内しているが、学校訪問やホームステイを受け入れる学校は限られている。

○成果指標・目標の状況

指標名	基準値(2017)	目標値(2023)	実績値(2019)
中学3年生の英語検定3級取得率	28.0%	40.0%	36.1%

○令和2年度の主な取組

- ・和歌山県国際人育成プロジェクト事業で、中学3年生全員の英語検定受験を行う。
- ・効果的な英語及び外国語活動の指導についての研究を進め、教員の指導力の向上を図る。
- ・中学生がカナダのリッチモンドに訪問し、国際理解を深める。

○令和元年度の主な取組と評価

取組内容①	集合研修では、ICT機器を活用した授業づくり研修や情報モラル・セキュリティ研修等を実施した。また訪問研修では学校に導入したタブレットパソコンの活用研修、校務支援ソフト活用研修等を実施した。	
評価	成果	集合研修を38回、学校訪問研修を82回実施し、研修受講者は延べ2,117人であった。
	課題	新学習指導要領で示されているプログラミング学習の確実な実施や、「GIGAスクール構想」の推進に向け、教員のICT活用指導力をさらに高めていく必要がある。

○成果指標・目標の状況

指標名	基準値(2017)	目標値(2023)	実績値(2019)
「教員のICT活用指導力調査」(文部科学省実施)において「授業中のICT活用」に『できる』『ややできる』と答える教員の割合	75.5%	85.0%	76.8%

○令和2年度の主な取組

- ・「GIGAスクール構想」の推進により、普通教室でのICT活用が加速する。そのため、普通教室の普段の授業でのICT機器活用が具体的にイメージできる研修内容を考え、進めていく。

取組 2-2-① | 大学等との連携強化と充実

○令和元年度の主な取組と評価

取組内容①		教育ボランティアについては、和歌山大学教育学部をはじめ他の大学等と連携し、年間延べ派遣回数3,500回を目標に学生のボランティア登録増加を進め、多くの和歌山市立の幼・小・中・高等学校（園）に学生を派遣し、未来の和歌山市の教育を支える人材の育成を推進する。また、派遣された学生の活動状況を把握し、より効果的な学習支援活動を推進する。教職員が、学生とともに、児童生徒にとってより有効な教育方法を工夫し創出することを通して、その力量の向上を図った。
評価	成果	令和元年度から、和歌山大学教育学部以外に和歌山信愛大学と四天王寺大学からも教育ボランティアの派遣を行った。和歌山大学教育学部からの延べ派遣回数は、1,715回と前年と比べ伸び悩んだが、和歌山信愛大学からは97回、四天王寺大学からは131回で、合計1,943回教育ボランティアとして派遣することができた。ボランティアの受入れを行った学校に実施したアンケート調査においても、「子供たちとの豊かな心の交流ができ学校の活性化につながる」といった評価を受けており、ボランティアの派遣要望が多数上がっている。
	課題	今回派遣数が減少した和歌山大学については、令和元年度に教育ボランティアの学生と和歌山大学教育学部の調整役である『学習支援指導専門員』と『事務補佐員』の人件費が削減になり、令和2年度にいたっては予算が0円となった。学校現場からの要望及びその必要性から、今後も事業内容が縮小することなく、派遣学校（園）でのボランティア内容の充実等について、和歌山大学と連携していく方法を検討する。

○成果指標・目標の状況

指標名	基準値(2017)	目標値(2023)	実績値(2019)
教育ボランティア延べ派遣回数	1,747回	3,500回	1,943回

○令和2年度の主な取組

- 令和2年度においても、和歌山大学教育学部と連携しつつ、和歌山信愛大学及び四天王寺大学からの教育ボランティアの派遣を引き続き実施していく。

基本方針Ⅱ	生涯を通じた豊かな心と健やかな体の育成
基本目標 3	豊かな心を育む教育の推進
施策 3-1	道徳教育の充実

取組 3-1-①	「心の教育」の充実
----------	-----------

○令和元年度の主な取組と評価

取組内容①	児童生徒が主体的に取り組む「特別の教科 道徳」の授業づくりを行った。	
評価	成果	公開授業や研修を行った。
	課題	児童生徒が議論する授業が少ない。
取組内容②	地域の方々や専門的な方との積極的な交流を行った。	
評価	成果	学校全体で地域の方々と年間を通じて交流を計画的に実施している学校も見られた。
	課題	交流のための打ち合わせ等の準備の時間確保が難しい。

○成果指標・目標の状況

指標名	基準値(2017)	目標値(2023)	実績値(2019)
「学校のきまり（規則）を守っている」と答える児童生徒の割合	【小学校】 87% 【中学校】 92% (2018)	100%	【小学校】 90% 【中学校】 94%

○令和2年度の主な取組

- ・道徳の授業力を向上する。
- ・体験活動、交流活動を計画的に実施する。
- ・道徳の公開授業を実施する。

取組 3-2-① | 郷土学習の推進

○令和元年度の主な取組と評価

取組内容①	地域の人材を学校に招き、外部講師として児童生徒に授業を行った。	
評価	成果	小学校では全ての学校で、中学校においても3分の2の学校で地域の人材を招き、授業を行っている。行われている。
	課題	全ての学年に、地域の人材を招いた授業が行われていないため、多くの学年で取り組んでいく必要がある。
取組内容②	小学校では、「かがやく和歌山市」等の副教材を使いながら、校区や和歌山市のことを学び、和歌山市の施設等にも校外学習として見学を行い、ふるさとの魅力を感じられるような授業に取り組んだ。	
評価	成果	副教材が全ての児童に配布されているため、授業でも扱いやすく和歌山市についての学習に取り組むことができた。また、校外学習で積極的に施設等の見学を行った。
	課題	学校によって校区に施設等がなく、遠くまで見学に行かなければならない。
取組内容③	中学校では、歴史の学習の中で、和歌山の偉人・先人等についての学習を行い、彼らの取組を学んだ。	
評価	成果	小規模校では、身近に和歌山の先人についての偉業を学ぶ学校があり、修学旅行では外務省に見学に行くなど、より学習を深めることができた。
	課題	大規模校では、全員で施設の見学等が難しいため、インターネット等による調べ学習になり、見学の機会を作るのが難しい。

○成果指標・目標の状況

指標名	基準値(2017)	目標値(2023)	実績値(2019)
地域の方が外部講師として授業を行った学校の割合	【小学校】	【小学校】	【小学校】
	70.6%	80.0%	100%
	【中学校】	【中学校】	【中学校】
	50.0%	60.0%	66.7%
	(2018)		

○令和2年度の主な取組

- ・地域の人材の積極的な活用を促進する。
- ・地域の施設等について学び、ふるさとの良さについて感じる取組を行う。
- ・和歌山にゆかりのある、偉人・先人について学習し、ふるさとに愛着をもてる取組を行う。

○令和元年度の主な取組と評価

取組内容①	小学校では地域の人材を活用し、地域の施設の見学等で将来の夢や仕事について学び、中学校では地域の事業所での職業体験を行った。	
評価	成果	身近な人や地域について学習するため、興味を持って取り組むことができている。
	課題	地域によって学習資源に差があるため、少し遠くに出向かなければならないことがある。
取組内容②	学校において、キャリア教育を組織的・系統的に推進するため、学校の教育活動の中で全体計画の中に取り入れ、年間計画の作成を進めた。	
評価	成果	各校ごとに、キャリア教の進め方について、具体的に取り組み始めている。
	課題	各校ごとに取り組み始めたところであるが、学校・学年のつながりを意識した計画を作成していく必要がある。

○成果指標・目標の状況

指標名	基準値(2017)	目標値(2023)	実績値(2019)
「将来の夢や目標を持っている」と答える児童生徒の割合	【小学校】 85.5%	【小学校】 90.0%	【小学校】 83.7%
	【中学校】 66.7%	【中学校】 70.0%	【中学校】 68.0%
	(2018)		

○令和2年度の主な取組

- ・小学校では夢や仕事について興味を持てるように学習し、中学校では職業体験を通じて、将来の仕事や進路について学習を行う。
- ・学校・学年のつながりをより意識した学校での計画を作り、実践していく。

○令和元年度の主な取組と評価

取組内容①	青少年国際交流センター等における宿泊体験活動を通して、自然に親しむ活動を充実させた。	
評価	成果	青少年国際交流センターを開設し、施設環境を整えた。また、体験活動を計画的に実施することができた。
	課題	平成30年12月開設だったため、利用する学校が限られた。今後計画的に利用していく必要がある。
取組内容②	森林の働きについて学習したり、林業に対する理解を深めたりするため、緑育体験を行った。	
評価	成果	実際に森林に行き、多くの子供たちが間伐体験や森林学習を通して、林業に対する理解を深めた。また年々、緑育体験を実施する学校が増えている。
	課題	今後も実施校が増えるよう取組を続ける必要がある。

○令和2年度の主な取組

- ・多くの学校が体験できるよう事業を推進する。

取組 3-3-① | 文化芸術に関する学習や体験活動の充実

○令和元年度の主な取組と評価

取組内容①		国及び和歌山県、関係団体が主催する公演事業を積極的に活用し、児童生徒へ体験活動を実施した。
評価	成果	国及び和歌山県、関係団体が主催する公演事業を積極的に活用し、児童生徒が具体的な体験活動を通じて文化芸術に親しむことができた。
	課題	今後も国及び和歌山県、関係団体が主催する公演事業を積極的に活用し、児童生徒へ体験活動を実施していく。
取組内容②		小・中学校音楽会、学校美術展、和歌山市川端龍子賞等表彰事業、和歌山市児童生徒文化奨励賞表彰事業等を行った。
評価	成果	小学校音楽会には31校、中学校音楽会には5校参加し、合唱合奏を披露した。
	課題	今後も小・中学校音楽会や学校美術展で交流した成果を日頃の教育活動に生かし、音楽や図工・美術教育を充実させていく。

○令和2年度の主な取組

- ・国及び和歌山県、関係団体が主催する公演事業を積極的に活用し、児童生徒へ体験活動を実施する。
- ・小・中学校音楽会、学校美術展、和歌山市川端龍子賞等表彰事業、和歌山市児童生徒文化奨励賞表彰事業を行う。

基本目標 4	健やかな体を育む教育の推進
施策 4-1	学校体育の充実

取組 4-1-①	学校体育の充実
----------	---------

○令和元年度の主な取組と評価

取組内容①	小学校1年生、中学校1年生にパワーアップチャレンジ手帳を配布し、各学年で自らの記録を記入させ、自らの体力に興味を持たせた。	
評価	成果	自らの記録を意識して、より良い記録を出すために意識して体育の授業等に取り組んだ。
	課題	体を動かすことが苦手な児童生徒には、体を動かす楽しさ等を体験して、苦手意識を少しでもなくす必要がある。
取組内容②	体育・保健体育の授業を行う教員のために指導力向上の研修を行い、児童生徒の体力・運動能力の向上に取り組んだ。	
評価	成果	全国体力テストの得点が、全国平均を上回るか、それに近い値まで上がってきている。
	課題	スピードや瞬発力、全身持久力に課題がある結果が出ているので、学校生活の中でより向上させていく取組を続ける。

○成果指標・目標の状況

指標名	基準値(2017)	目標値(2023)	実績値(2019)
全国体力テスト平均体力合計点	【小学校】	【小学校】	【小学校】
	男子 55.01	男子 55.05	男子 54.13
	女子 56.16	女子 56.38	女子 55.12
	【中学校】	【中学校】	【中学校】
	男子 41.93	男子 42.53	男子 41.71
	女子 48.62	女子 49.41	女子 50.40

○令和2年度の主な取組

- ・児童生徒がパワーアップチャレンジ手帳を活用し、自らの体力に関心を持って体力・運動能力の向上を目指す。
- ・全国体力テストの結果を受けて、苦手な部分を体育等の授業の時だけでなく、学校生活の中で向上できるように取組を行う。

取組 4-2-① | 健康教育の充実

○令和元年度の主な取組と評価

取組内容①		適切な健康管理と保健指導の充実及び組織的、計画的な健康教育の実施。
評価	成果	定期健康診断を実施し、児童生徒の健康管理と保健指導の充実を図った。また、学校保健計画に基づき健康教育を実施した。（※状況調査については未実施。）
	課題	長期欠席児童生徒への健診の実施や健診後の医療機関の受診率の向上が必要である。また児童生徒の健康課題の多様化により、健康教育の内容が増加している。
取組内容②		「歯と口の健康づくり」を推進した。
評価	成果	よい歯の学校及び児童表彰、ポスター等作品募集（いずれも歯科医師会共催）による啓発ができた。歯垢染色剤を各校配布し保健指導等での活用を求めた。
	課題	12歳児う歯有病率の上昇を抑える必要がある。

○成果指標・目標の状況

指標名	基準値(2017)	目標値(2023)	実績値(2019)
むし歯のない12歳児の割合	72.7%	80.0%	61.3%

○令和2年度の主な取組

- ・適切な健康管理と保健指導の充実及び組織的・計画的な健康教育を実施する。
- ・「歯と口の健康づくり」を推進する。

取組 4-3-① | 食育の推進

○令和元年度の主な取組と評価

取組内容①		学校給食や様々な体験活動を通じて、計画的に子供の食に関する理解を促進した。
評価	成果	各学校が食に関する指導の全体計画を作成し、各教科や総合的な学習の時間等において、食育を推進した。
	課題	各学校において、組織的、計画的な食育を実施する必要がある。
取組内容②		学校給食を生きた教材とし、和歌山の食材を使用した食育を進め、給食指導を推進し、学校給食の一層の充実を図った。
評価	成果	小学校給食において月1回「地産地消の日」を設定する等、可能な限り地元産の食材を取り入れた地場産物の活用を進めた。
	課題	より一層の地場産物の活用を進める必要がある。

○成果指標・目標の状況

指標名	基準値(2017)	目標値(2023)	実績値(2019)
小学校給食における和歌山市内産の農産物品目ベースの提供率	21.1%	30.0%	18.6%

○令和2年度の主な取組

- ・学校給食や様々な体験活動を通じて、計画的に子供の食に関する理解を促進する。
- ・学校給食を生きた教材とし、和歌山の食材を使用した食育を進め、給食指導を推進し、学校給食の一層の充実を図る。

基本目標5	人権を尊重する社会を築くための教育の推進
施策5-1	人権・同和教育の充実

取組 5-1-①	学校における人権・同和教育の充実
----------	------------------

○令和元年度の主な取組と評価

取組内容①	全ての学校において統一した研修を行うことができるよう、「本市の人権・同和教育について」という教材を各学校へ配布し、教育活動全体を通じた人権・同和教育の充実を図った。	
評価	成果	統一した教材を活用することで、各校における人権・同和教育の取組等の差異を軽減することができた。また、教材は新採教員研修等にも活用することができた。
	課題	配布している教材の内容を実状に応じて改善し、さらなる人権・同和教育の充実を図る。
取組内容②	各学校における人権・同和教育の取組の充実が図られるよう、「和歌山市ブロック人権教育研究会」において市内を19ブロックに分け、それぞれにおいて講演会や研究授業、学校間での実践交流を行った。	
評価	成果	市内19ブロックにおいて、それぞれ講演会や研究大会が開催され、校種を超えた実践交流や取組の確認ができた。
	課題	これまで同様、ブロック内の学校間での連携を密にしながら、課題設定や内容の精選を行って、研究を深める。

○成果指標・目標の状況

指標名	基準値(2017)	目標値(2023)	実績値(2019)
「自分には、よいところがあると思う」と答える児童生徒の割合	【小学校】86% 【中学校】75% (2018)	【小学校】91% 【中学校】80%	【小学校】83% 【中学校】75%
「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と答える児童生徒の割合	【小学校】98% 【中学校】95% (2018)	【小学校】100% 【中学校】100%	【小学校】98% 【中学校】96%

○令和2年度の主な取組

- ・「本市の人権・同和教育について」の内容を見直し、教育活動全体を通じた人権・同和教育の充実を図る。
- ・「和歌山市ブロック人権教育研究会」(市内19ブロック)において、講演会や研究授業等、学校間での実践交流を行う。

○令和元年度の主な取組と評価

取組内容①	幅広い市民が人権について、その時々が発生した事案に応じたテーマで学ぶことができる人権講座を年2回開催した。	
評価	成果	2回の人権講座に、699名の参加者があり、一定の人権啓発・教育を行うことができた。
	課題	必要と考えるテーマと、市民の関心が高いテーマとが必ずしも一致しない。

○成果指標・目標の状況

指標名	基準値(2017)	目標値(2023)	実績値(2019)
人権講座の参加者数	764名	900名	699名

○令和2年度の主な取組

- ・テーマ・講師を厳選し、多くの市民の方々に人権問題について関心を持って参加してもらえるような講座を開催する

基本方針Ⅲ	安全・安心な教育環境の整備
基本目標 6	安全・安心な教育環境の整備
施策 6-1	子供たちの安全の確保

取組 6-1-①	子供の安全確保の推進
----------	------------

○令和元年度の主な取組と評価

取組内容①	不審者情報等を迅速かつ正確に伝達できるように、更に関係機関との連携を深め、当該地域を少年センターの青色パトロールカーで巡回し、安全確保に努めた。	
評価	成果	不審者情報の連絡が入り次第、近隣の学校と所轄警察署、地域安全課へ連絡し、子供の安全確保に努めるため少年センターで青色パトロール巡回を行った。
	課題	声かけ事案について、不審者であるか地域住民であるか判断が困難なケースが多く、より正確な情報を収集し、慎重に判断する必要がある。

○成果指標・目標の状況

指標名	基準値(2017)	目標値(2023)	実績値(2019)
安全パトロールの実施回数	189回	200回	204回

○令和2年度の主な取組

- ・不審者情報の連絡があれば、当該地域を青色パトロールで巡回する。また、近隣の学校や所轄警察署等に連絡し、緊急かつ重大な案件については、メール配信サービスを活用した注意喚起を行う。

取組 6-2-① | **安全・安心な教育環境の確保**

○令和元年度の主な取組と評価

取組内容①	ブロック塀改修事業を進めた。	
評価	成果	平成 30 年度国補正予算による「ブロック塀・冷房設備対応臨時特例交付金」を活用し、令和元年度に小学校 37 校・中学校 11 校・幼稚園 4 園・義務教育学校 1 校の主に既存不適格かつ道路部分に面したブロック塀の改修を行い、児童生徒の安全・安心な教育環境の確保を図った。
	課題	今後は、主に民地との境界部分の改修を行うこととなるが、事業の実施にあたって隣地の同意を得る必要があるなどスムーズに事業進行ができるか、また、今後も多額の事業費が必要となることから財源の確保が課題である。

○成果指標・目標の状況

指標名	基準値(2017)	目標値(2023)	実績値(2019)
ブロック塀等の耐震化率	【小学校】 8.2% 【中学校】 7.1%	【小学校】 100% 【中学校】 100%	【小学校】 59.6% 【中学校】 95.1%

○令和 2 年度の主な取組

- ・ブロック塀改修工事（雑賀小・西和佐小・川永小）
- ・昇降路整備工事（有功小）
- ・屋上防水改修工事（紀伊小・野崎西小・和佐幼）

○令和元年度の主な取組と評価

取組内容①		空調設置事業を進めた。
評価	成果	国交付金を活用し、平成 26 年度から継続して空調の設置を進めており、平成 29 年度に小学校及び中学校の普通教室への設置を完了した。 令和元年度には平成 30 年度国補正予算による「ブロック塀・冷房設備対応臨時特例交付金」を活用し、小学校 45 校・中学校 17 校・幼稚園 1 園の特別教室等への設置を進め、学校教育環境の改善を図った。
	課題	教室への空調設備の新設については一応の目途がついたものの、職員室や保健室などの空調設備が更新時期を迎えており、それらの中には現在は生産が終了している冷媒が使用されているものが多数ある。故障が発生した場合は修繕が困難となるため、早期の更新工事が必要であるが、多額の事業費が必要であることから財源の確保が課題である。
取組内容②		トイレ改修事業を進めた。
評価	成果	国交付金を活用し、平成 29 年度から継続して小学校及び中学校のトイレ改修(洋式化、男女別化等)を進めており、令和元年度は、一部入札不調により未実施の学校があったものの、小学校 31 校・中学校 13 校の改修を行い、児童・生徒が安心して快適に学校生活を送れるように環境改善を図った。
	課題	継続してトイレ改修を進めているところであるが、未だ老朽化のため改修の必要な箇所が多く残っており、事業を進めるにあたっては、多額の事業費が必要となることから財源の確保が課題である。

○成果指標・目標の状況

指標名	基準値(2017)	目標値(2023)	実績値(2019)
トイレ洋式化率	【小学校】 30.7%	【小学校】 89.9%	【小学校】 55.4%
	【中学校】 28.2%	【中学校】 91.0%	【中学校】 51.1%

○令和2年度の主な取組

- ・既設プール解体・物置解体及び新築・校舎増築工事（安原小）を行う。
- ・空調設置事業（小学校 13 校・中学校 6 校・幼稚園 3 園）を行う。
- ・トイレ改修事業（小学校 5 校・中学校 6 校）を行う。

○令和元年度の主な取組と評価

取組内容①	学校図書館の3つのセンター機能（「読書」「学習」「情報」）の充実による学校図書館の活性化をした。	
評価	成果	県教委と協力し、学校図書館担当者や学校図書館ボランティアの研修を実施することができた。
	課題	担当者以外の職員への3機能充実の必要性の周知が必要である。
取組内容②	学校図書館司書の配置した。	
評価	成果	学校図書館司書の配置換えによる学校図書館の活性化が図れた。
	課題	学校図書館司書の増員と蔵書システムの導入が必要である。
取組内容③	「うちどく推進事業」の継続し、蔵書数増加による活性化を図った。	
評価	成果	標準蔵書数を上回っているが、児童生徒が手に取ることのない古い本が多いため、廃棄を促しているが顕著な成果は見られない。
	課題	児童生徒にとって魅力のある書籍を配置するための廃棄促進である。

○成果指標・目標の状況

指標名	基準値(2017)	目標値(2023)	実績値(2019)
学校司書配置校の割合	【小学校】 6%	【小学校】 36%	【小学校】 6%
	【中学校】 6%	【中学校】 35%	【中学校】 6%

○令和2年度の主な取組

- ・一般教員を対象とした研修会や校内研修の促進をする。
- ・読書活動推進課との連携し、学校図書館司書の増員と有効配置による学校図書館の活性化を行う。
- ・「うちどく推進事業」を継続する。

取組 6-3-① | 学校の勤務環境の整備

○令和元年度の主な取組と評価

取組内容①		出出勤システムを活用し、出出勤時間を正確に把握し、勤務時間を十分に認識したうえで本来の教職員の業務である子供と向き合う時間の確保を「できている」と「取組中」を合わせて100%にし、適正な働き方ができる体制の整備に取り組んだ。
評価	成果	小・中学校及び市立和歌山高等学校（全日制・定時制）に出出勤システムを導入し、在校等時間を把握することで超過勤務を抑制し、教職員の健康管理に寄与した。
	課題	幼稚園についても同様に出勤システムを導入していく。
取組内容②		「チーム学校」として、教員の負担を軽減するためのスタッフとして、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、スクール・サポート・スタッフ等の専門スタッフの配置を促進した。
評価	成果	令和元年度において、スクールカウンセラーは市内小・中・義務教育学校68校に41人及び市立和歌山高等学校に1人、スクールソーシャルワーカーは14校に7人、スクール・サポート・スタッフは18校に21人配置できた。
	課題	学校現場における、児童生徒に関する相談件数や事務処理量は依然として多く、教員の負担へ減らし職務遂行に専念できる環境を整えるために「チーム学校」のスタッフは必要不可欠であるため、市費の職員は予算要求を、県費職員は和歌山県教育委員会に対して配置人数や勤務日数を増やすように働きかけていく。
取組内容③		校務支援システムの積極的な活用や教育情報ネットワークを活用した情報の共有など、学校における校務の効率化の推進を図った。
評価	成果	小学校の通知表の電子化が市内全学校全学年で可能となった。また中学校の校務支援システムのアップデートにより、教職員が利用する際に利便性が上がった。
	課題	現在中学校の校務支援システムは中学校1年生の分から導入しており、次年度以降に順次他の学年の分もアップデートし、操作方法を周知する。

取組内容④	部活動における休養日、練習時間の設定や部活動指導員の配置により、教職員の負担軽減や生徒の安全かつ効果的な活動を確保するための指導体制の充実に取り組んだ。	
評価	成果	令和元年度において、市内14校に合計29人の部活動指導員の配置を行った。また、部活動における休養日の現状については、平成31年4月に「和歌山市部活動指針」を策定し、適切な休養日の設定が行われている。
	課題	各学校から部活動指導員の配置要望はあるが、人材が見つかりにくかった。しかし令和2年度から会計年度任用職員となり、今まで学校単位で募集していたのが教育委員会から公募を行うことにより広く周知させていくことで、人材の確保を図っていく。

○成果指標・目標の状況

指標名	基準値(2017)	目標値(2023)	実績値(2019)
自己目標を持ち、子供と向き合う時間の確保について「できている」「取組中」と答える割合	できている 56%	できている 80%	できている 63%
	取組中 42%	取組中 20%	取組中 37%
	できていない 2%	できていない 0%	できていない 0%

○令和2年度の主な取組

- ・幼稚園についても同様に出勤システムを導入していく。
- ・学校からの要望と実態に即した職員配置を行えるように、市費の職員については予算要求を県費の職員については和歌山県教育委員会に働きかけていく。
- ・中学校の校務支援システムのアップデートを順次行い、操作方法を周知する。
- ・部活動指導員の募集をこれまで学校単位で行っていたのを、令和2年度から教育委員会で公募を行うことにより広く周知させていくことで、人材の確保を図っていく。

取組 6-4-① | 学校適正規模化の推進

○令和元年度の主な取組と評価

取組内容①	児童生徒数を把握し、適正規模外となる学校の把握をした。	
評価	成果	適正規模外となる、特に小規模校について、児童生徒数を把握した。
	課題	著しく児童生徒数が減っている学校の対応の検討が必要である。

○令和2年度の主な取組

- ・和歌山市内の小規模校の児童生徒数把握及び推移の調査を行う。
- ・児童生徒数の減少している小規模校の調査、検討を行う。

基本方針Ⅳ	家庭や地域における教育力の向上
基本目標 7	家庭や地域における教育力の向上
施策 7-1	家庭における教育力の充実

取組 7-1-① | 家庭教育支援の充実

○令和元年度の主な取組と評価

取組内容①	家庭教育支援サポーター養成講座を実施し、家庭教育支援に関わる人材の育成を行った。	
評価	成果	家庭教育支援サポーター養成講座を実施し、8人の方が家庭教育支援サポーター登録を行った。
	課題	様々な背景を持ったサポーターになっていただくことで、幅広い人材が確保することが必要である。

○成果指標・目標の状況

指標名	基準値(2017)	目標値(2023)	実績値(2019)
家庭教育支援サポーターの登録者数 【人数】	0人	25人	8人

○令和2年度の主な取組

- ・家庭教育支援サポーター養成講座を実施する。
- ・家庭教育支援サポーターによる家庭教育講座を実施する。

○令和元年度の主な取組と評価

取組内容①		連合会との共催で講演会やシンポジウムによる家庭教育、人権教育等における研修会を実施した。(幼稚園2回、小学校1回、中学校1回)
評価	成果	それぞれの研修会の参加者も例年より微増し、各研修会等で得た内容を各学校のPTAで情報共有することで、教育に関する意識の向上につながった。
	課題	参加者が概ね固定されており、連合会と協力し、広報啓発を行い、より幅広く研修に参加してもらい必要がある。
取組内容②		スポーツ大会や合唱祭、保護者・学校・地域が一体となった活動等の支援を行った。
評価	成果	スポーツ大会や合唱祭等の保護者同士の交流を深めることができる行事の支援を行うことができた。
	課題	参加者が年々減少してきているので、広報啓発を含め支援していく必要がある。

○成果指標・目標の状況

指標名	基準値(2017)	目標値(2023)	実績値(2019)
PTA研修会や交流活動等の参加率	48.9%	55.0%	48.6%

○令和2年度の主な取組

- ・講演会やシンポジウムによる家庭教育、人権教育、食育や防災教育等に関する様々な分野での研修会を共催していく。

○令和元年度の主な取組と評価

取組内容①	児童数の動向を見ながら、若竹学級の増設を含む施設整備や支援員等の確保を図り、受け入れ児童数の増加に取り組む。	
評価	成果	平成30年4月の89学級3,305人から、平成31年4月の93学級3,557人へと、学級を増設して受け入れ児童数が増加した。
	課題	受け入れ児童数の増加に取り組んできたが、若竹学級の量的拡充は限界に近付きつつある。

○成果指標・目標の状況

指標名	基準値(2017)	目標値(2023)	実績値(2019)
若竹学級入級者数	3,305人 (2018)	3,900人	3,557人

○令和2年度の主な取組

- ・令和2年4月からの若竹学級運営の民間委託により、量的拡充だけでなく質的向上に積極的に取り組む。

取組 7-2-① | 土曜日における子供の居場所づくり

○令和元年度の主な取組と評価

取組内容①	運営委員等交流会を実施し、成果や課題について話し合い、活動内容や広報活動等の工夫について情報交換を行った。	
評価	成果	例年より多くの関係者が集まり、各子どもセンターの課題や活動内容の交流が活発に行われ有意義な会議になった。
	課題	多くの子どもセンター関係者が集まったが、全ての小学校区ではないのでより多くの関係者を集めるために広報する必要がある。

○令和2年度の主な取組

- ・運営委員等交流会、運営委員長会議を実施し、各センターでの情報交換をする。
- ・視察を行い、各子どもセンターでの活動の様子をデータで残し、各会議で情報発信する。

○令和元年度の主な取組と評価

取組内容①	学校と地域が連携協力するために、和歌山市共育推進本部会議及び各地域共育協議会（西浜・西脇・鳴滝・貴志）をそれぞれ2回ずつ開催した。	
評価	成果	それぞれの地域での取り組み内容の紹介や交流が活発に行われたことにより、各地域での連携協力のための新たな情報を得ることができた。
	課題	地域が固定化されているため、ほかの地域への情報発信につながっていない。
取組内容②	ボランティア募集や活動成果を周知する広報活動を各地域共育協議会で行い、登下校の見守りや図書館ボランティアなどボランティア活動の促進を図った。	
評価	成果	子供たちを支えるボランティア活動に参加する地域住民が年々増加している。
	課題	登下校の見守りが大半を占めるので、今後は地域人材の得意分野を活かしたボランティア活動の促進を図る必要がある。

○成果指標・目標の状況

指標名	基準値(2017)	目標値(2023)	実績値(2019)
1日あたりのボランティア参加人数（地域共育協議会設置地域による）	70人	73人	74人

○令和2年度の主な取組

- ・和歌山市共育コミュニティ推進協議会、各地域共育協議会を実施する。

○令和元年度の主な取組と評価

取組内容①	インターネットの普及に伴う情報モラル教室を実施した。また子供を守るために、学校・家庭・地域と連携して、情報提供や研修会を行い、SNS の正しい利用方法についての啓発を行った。	
評価	成果	保護者や地域等への教室や講演は、少しずつ増加傾向にあり、大人に対して情報モラルの啓発を行うことができた。
	課題	児童生徒は、義務教育の間に1・2回は、情報モラル教室を受けるようになってきた。今後、保護者や教員、地域の方々に啓発する必要がある。

○成果指標・目標の状況

指標名	基準値(2017)	目標値(2023)	実績値(2019)
インターネット普及に伴う情報モラル教室の啓発校数	【小学校】28校 【中学校】15校 【義務校】1校	【小学校】35校 【中学校】17校 【義務校】1校	【小学校】22校 【中学校】12校

○令和2年度の主な取組

- ・児童生徒に対しての情報モラル教室の開催を各学校に啓発する。また、保護者や地域の方々にもインターネット等から起こるトラブルを知ってもらい、子供を守るために情報提供をする。

基本方針Ⅴ	郷土に誇りと愛着を育む文化・スポーツの振興と生涯学習の推進
基本目標 8	生涯学習の推進
施策 8-1	生涯学習の啓発と機会の提供

取組 8-1-① | 生涯学習の啓発・推進

○令和元年度の主な取組と評価

取組内容①	生涯学習内容に関する調査及び研究の一環として、市政世論調査を利用し、市民の生涯学習活動の実施状況を把握した。	
評価	成果	市民の生涯学習活動の実施実態と実施できていない理由が明確となった。
	課題	「生涯学習活動を行うための時間を確保できない」という回答が40%あり、身近な地域でも生涯学習活動が行えることを広報する必要がある。
取組内容②	和歌山市生涯学習人材バンク登録者名簿を作成し、指導者や講師を探す個人や団体に紹介した。	
評価	成果	毎年、数名の指導者登録がある。
	課題	市民への周知徹底が必要であり、指導者には更に高度な知識・技術習得に向けた研修を行う必要がある。

○成果指標・目標の状況

指標名	基準値(2017)	目標値(2023)	実績値(2019)
生涯学習支援サービスに対する市民の満足度（市政世論調査より）	11.2%	15.0%	6.4%
生涯学習人材バンク等登録者数	146名	150名	168名

○令和2年度の主な取組

- ・「生涯学習活動を行うための時間を確保できない」結果をふまえ、講座を開設する際は、時間帯の設定や講座内容も市民のニーズを的確にとらえ、希望に添った講座を多く実施できるように努める。
- ・「生涯学習情報を得る機会が少ない」結果をふまえ、広報活動をより積極的に行っていく。

○令和元年度の主な取組と評価

取組内容①	地区公民館の運営をそれぞれの地区に委託し、それぞれの地区の実情に応じた特色ある取組を行った。	
評価	成果	それぞれの地区の講座に多くの人に参加し、公民館活動を通じて地域の活性化につながった。
	課題	公民館活動の参加者は、高齢者が多いことから、子供やその親世代の参加を促進していく必要がある。
取組内容②	成人式における式典やアトラクションについて、はたちのつどい実行委員会及び新成人代表者による会議で内容を検討し、より魅力のあるものにした。	
評価	成果	式典内容の見直しを行った結果、多くの新成人が会場内に入り、楽しんでもらえた。
	課題	参加率については、ほぼ50数%で推移しているが、年々低下傾向である。

○成果指標・目標の状況

指標名	基準値(2017)	目標値(2023)	実績値(2019)
地区公民館講座受講者数	103,877人	110,000人	98,058人
成人式祝賀事業参加率	52.5%	60.0%	51.4%

○令和2年度の主な取組

- ・地区公民館活動において、さらに多くの家庭教育支援講座を実施してもらえるよう促していく。
- ・さらに魅力的な成人式となるよう、式典等について実施内容を検討していく。

取組 8-2-① | 生涯学習施設の整備・充実

○令和元年度の主な取組と評価

取組内容①		生涯学習活動の場として、各種の講座を開設し、市民の学習活動を支援。 文化活動及び地域活動の場として、自主団体に会場を貸出。 市民図書館とネットワークを組み、図書資料の貸出など図書室を運営。
評価	成果	市民の生涯学習、文化、地域活動の振興で、生活の向上、自己の充実をめざし、各人が自発的意思に基づいて学習できた。
	課題	主催事業が参加希望者不足で中止となることがあったので、市民ニーズにあった主催事業を開催できるように努める。
取組内容②		コミュニティセンター未設置地区へのコミュニティセンター設置に向け、地元の意見を聞きながら関係機関と協議中である。
評価	成果	地元の意見を尊重しながら、検討を進めている。
	課題	コミュニティセンター用地の決定に時間を要している。

○成果指標・目標の状況

指標名	基準値(2017)	目標値(2023)	実績値(2019)
コミュニティセンター利用者数	549,013 人	600,000 人	562,713 人
コミュニティセンター設置数	7 館	8 館	7 館

○令和2年度の主な取組

- ・生涯学習活動の場として、地域活動の場として、多くの市民に利用してもらえるように引き続き務める。
- ・コミュニティセンター経年劣化に伴う修繕等や東部コミュニティセンターの機能回復工事への取り組み、コミュニティセンターの利便性向上に努める。

○令和元年度の主な取組と評価

取組内容①	幅広い世代の市民が居心地よく、多様な目的で活用できる図書館サービスの実現をめざした。	
評価	成果	新設する市民図書館では、市民の多様なニーズに対応できるよう学習席や閲覧席を充実するなど利用環境を整備した。
	課題	新市民図書館が開館し、これまで図書館を利用していない方に、図書館の利用を促進する必要がある。

○成果指標・目標の状況

指標名	基準値(2017)	目標値(2023)	実績値(2019)
蔵書数	480,418 冊	550,000 冊	543,506 冊
行事参加人数	6,401 人	7,000 人	1,507 人
市民1人当たりの貸出資料数(コミュニティー図書室を含む)	4.0 冊	7.5 冊	3.4 冊

○令和2年度の主な取組

- ・新市民図書館が全館開館し、図書館を生涯学習及びまちの賑わいの拠点として、あらゆる世代の方が豊かな人生を過ごすことができるよう、様々な情報・サービスを提供する。
- ・読書離れの傾向にある現状に、子供の読書への関心を高めるためのサービスや読書環境の充実に取り組む。

基本目標 1 1	スポーツの振興
施策 1 1 - 1	生涯スポーツの振興

取組 1 1 - 1 - ②	学校体育施設開放の推進
----------------	-------------

○令和元年度の主な取組と評価

取組内容①	夜間照明施設が設置された中学校のグラウンドについて、照明設備の安全性確保や照明器具の整備を行った。	
評価	成果	利用者の満足度の向上により、昨年度よりも利用回数が増えている。
	課題	強風や雨天後、施設整備（配線やブレーカー）に不具合が生じるため、整備が必要である。

○成果指標・目標の状況

指標名	基準値(2017)	目標値(2023)	実績値(2019)
学校体育施設（体育館）の利用団体数	550団体	570団体	563団体

○令和2年度の主な取組

- ・照明設備等、さらに施設整備の充実が必要である。

IV 今年度の和歌山市教育委員会事務評価委員会からの意見

令和元年度分教育委員会の事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価に当たり、客観性を確保するため、和歌山市教育委員会事務評価委員会を開催し意見を聴いた。

和歌山市教育委員会事務評価委員会によるヒアリングは、第2次教育振興基本計画で定める基本施策26項目を推進するための具体的な取組51項目中で、市長が管理し、及び執行することとなった「芸術・文化の振興」、「文化財の保護・活用」及び「スポーツの振興」に係る7項目を除いた44項目のうち、主に12項目を中心に行われた。なお、この12項目については、事務評価委員のご意見を元選ばれている。

(1) 和歌山市教育委員会事務評価委員会 委員

氏名	所属
島津 俊之	和歌山大学教育学部 副学部長
芝田 史仁	和歌山信愛女子短期大学 教授
中西 美乃里	和歌山市公立幼稚園・こども園PTA連合会 会長
水越 円香	和歌山市小学校PTA連合会 副会長
福田 雄介	和歌山市中学校PTA連合会 会長
鳥居 裕史	智辯学園和歌山中学・高等学校 中学校長

(2) 意見聴取日等

- ① 第1回 令和2年8月3日(月) 教育文化センター4階
- ② 第2回 令和2年9月2日(水) 和歌山市役所11階 教育委員室

(3) 評価点

各取組の目標の達成ぐあいについて、「1点 達成できていない」、「2点 あまり達成できていない」、「3点 おおむね達成できているが改善すべき点がある。」又は「4点 十分に達成できている。」により評価点を付けていただいた。

具体的な取組		評価点 合計 (/24点)	平均点	評価内訳			
				1点	2点	3点	4点
1-1-①	学力の向上	13	2.2		5	1	
1-1-⑤	幼児教育の充実	19	3.2			5	1
1-2-⑤	教育相談活動の充実	20	3.3			4	2
1-2-⑥	安全教育・防災教育の充実	18	3.0			6	
2-1-②	情報化に対応する教育の充実	15	2.5		3	3	
3-2-③	自然体験学習の充実	19	3.2			5	1
6-1-①	子供の安全確保の推進	19	3.2		1	3	2
6-2-②	学校施設の充実	19	3.2			5	1
6-3-①	学校の勤務環境の整備	16	2.7		2	4	
7-1-①	家庭教育支援の充実	13	2.2	1	3	2	
7-2-③	青少年の健全育成	17	2.8		1	5	
8-2-②	市民図書館の整備・充実	21	3.5			3	3

(4) 主な意見

①全体意見

- ・各種団体と連携しながら教育委員会全体の抜本的な目標を設定し、その目標に向かっていくことがわかる取組をするべきである。
- ・目標がどの程度達成できているのかを、より客観的に評価できるような仕組みを作るべきである。

②取組別の意見

1-1-① 学力の向上

- ・学力テストにおける平均正答率が全国平均を下回っていることは大きな課題と言わざるを得ない。前年度との比較をするなど全体的な分析が必要である。

1-1-⑤ 幼児教育の充実

- ・研修に参加した保育教諭等からの満足度調査や実際に教育・保育を行っている保育教諭等のカリキュラムに対する評価の調査をするべきである。

1-2-⑤ 教育相談活動の充実

- ・相談業務を行うスクールソーシャルワーカー等の人員体制の充実を図るべきである。

1-2-⑥ 安全教育・防災教育の充実

- ・安全教育及び防災教育は重大な課題であり、中学校の安全教室の実施が半数程度である

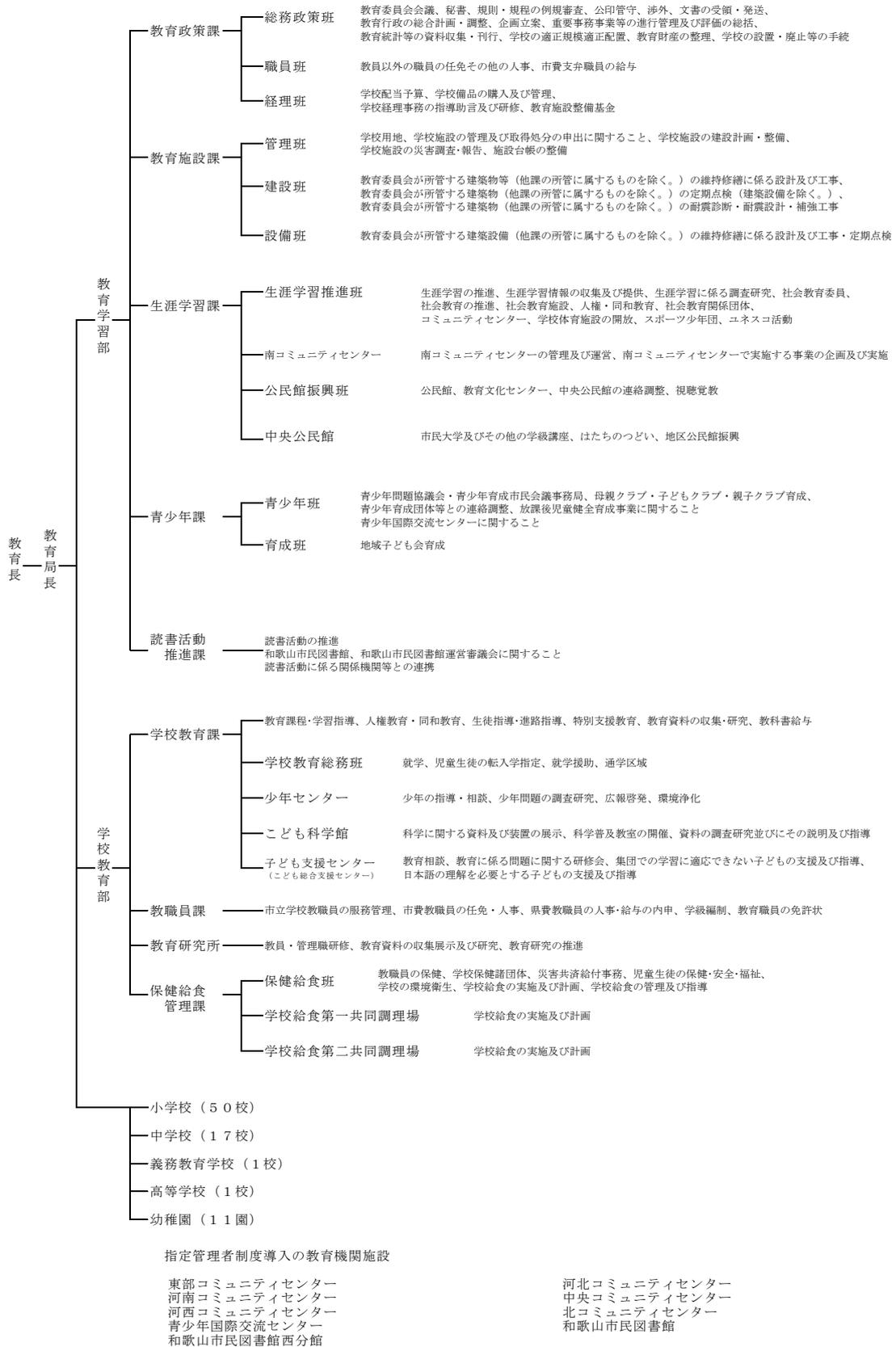
<p>ことから、実施校数を増やし、さらなる啓発を行うべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全、防災対策においては、地域との連携が不可欠であり、コミュニティスクールなどの活用による取組を再検討していくべきである。
<p>2-1-② 情報化に対応する教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒に端末を使用させる際にどこまで規制して、どう有用な活用をするかのビジョンを作成する必要がある。 ・教員が実際使い始めてから、出てくる悩みや疑問に対応するため、導入してからの研修の充実が必要である。
<p>3-2-③ 自然体験学習の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和歌山市は自然学習の対象にはこと欠かないので、加太と森林体験だけではなく、今後さらにこの立地を活かした形でヴァリエーションを増やし、自然体験学習を進めていくべきである。
<p>6-1-① 子供の安全確保の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供の安全確保という目標に向かって、より効果的に子供の安全を守るために、部署間の連携をより強くして取り組む必要がある。
<p>6-2-② 学校施設の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空調設備やトイレの洋式化など設備の充実は進んでいる。子供の健康問題は最優先課題なので設備の更新等に今後も取り組む必要がある。 ・調理員の労働環境の改善及び食中毒予防等の食品衛生の面において、給食室への空調設備の設置をするべきである。
<p>6-3-① 学校の勤務環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員は子供と向き合う時間が一番大事であるので、労働時間の削減のみを目標にせず、仕事の内容を見直し、効率化することで、さらに子供と向き合う時間の確保に取り組んでいくべきである。
<p>7-1-① 家庭教育支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育支援サポーターの在り方について、課題が多く残されていると言わざるを得ない。家庭教育支援サポーターの役割を明確化し、より効果的な活動方法を模索するべきである。 ・家庭教育支援サポーターを増やすためにも、開催回数や受講の仕方を検討し、講座を受講しやすくするべきである。
<p>7-2-③ 青少年の健全育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットやSNSの使用におけるモラルの教育のみをするのではなく、情報化に対応する教育の推進と絡めて教育する必要がある。 ・外部講師を利用するなど様々な視点からの教育を取り入れて、最新の情報通信技術等に対応するべきである。

8-2-② 市民図書館の整備・充実

・今後も市民に親しみのある魅力的な新市民図書館でありつづけるよう努力するべきである。

V その他

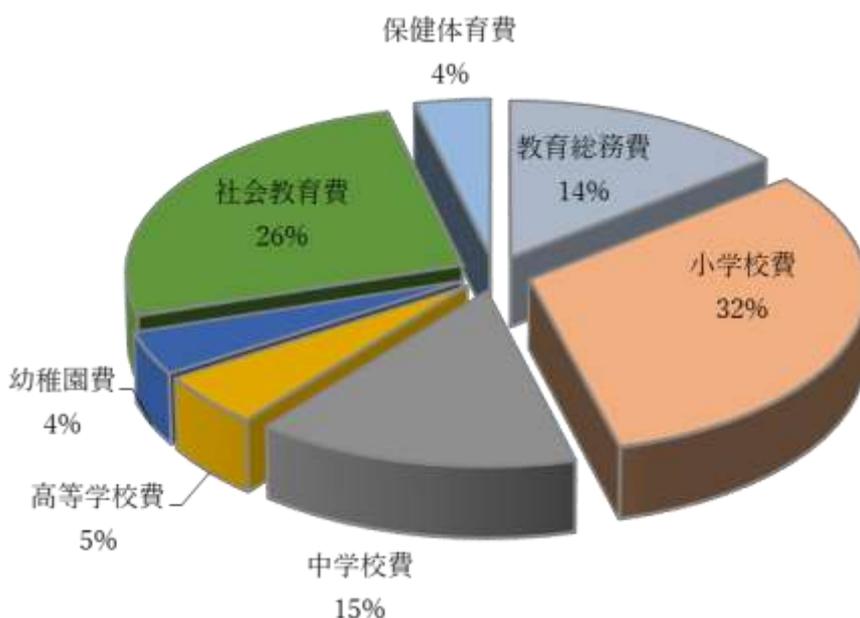
1 教育委員会の組織（令和2年4月1日現在）



2 教育費決算額

① 令和元年度教育費決算額内訳

項	金額(千円)	対前年度比増減 (千円)	対前年度 伸び率(%)
教育総務費	1,889,060	-1,202,261	-38.9
小学校費	4,161,509	1,597,323	62.3
中学校費	1,951,753	1,179,346	152.7
高等学校費	675,036	16,406	2.5
幼稚園費	550,975	6,277	1.2
社会教育費	3,438,542	636,839	22.7
保健体育費	500,082	-5,615	-1.1
計	13,166,957	2,228,315	20.4



② 教育費決算額の推移

項	単位(千円)				
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
教育総務費	1,885,583	2,060,959	2,327,021	3,091,321	1,889,060
小学校費	3,281,099	5,892,602	5,678,842	2,564,186	4,161,509
中学校費	886,772	926,461	1,338,650	772,407	1,951,753
高等学校費	623,039	622,050	620,419	658,630	675,036
幼稚園費	533,701	523,458	563,109	544,698	550,975
社会教育費	2,160,950	2,483,309	4,566,059	2,801,703	3,438,542
保健体育費	946,371	894,353	921,564	505,697	500,082
計	10,317,515	13,403,192	16,015,664	10,938,642	13,166,957

3 関連法令等

① 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）抜粋

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

② 和歌山市教育委員会事務評価委員会条例

（設置）

第 1 条 教育委員会の附属機関として、和歌山市教育委員会事務評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（所掌事務）

第 2 条 委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 26 条第 1 項の規定により教育委員会が行う同項の点検及び評価について調査審議し、教育委員会に意見を述べるものとする。

（組織）

第 3 条 委員会は、委員 6 人以内で組織する。

2 委員は、教育に関する学識経験を有する者その他教育委員会が必要と認める者のうちから、教育委員会が委嘱する。

（任期）

第 4 条 委員の任期は、委嘱した日からその日の属する年度の末日までとする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

（委員長及び副委員長）

第 5 条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選により選任する。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会議）

第 6 条 委員会の会議（以下この条において単に「会議」という。）は、委員長が招集する。ただし、委員の全員が新たに委嘱された後最初に招集すべき会議は、教育委員会が招集する。

2 委員長は、会議の議長となる。

3 委員会は、委員の過半数の出席がなければ、会議を開くことができない。

4 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

5 委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者に対して会議への出席を求め、その意見若しくは説明を聴き、又は必要な資料の提供を求めることができる。

（守秘義務）

第 7 条 委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、同様とする。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、教育委員会事務局教育学習部において処理する。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

③ 和歌山市教育委員会事務の点検及び評価実施要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定に基づき、和歌山市教育委員会（以下「教育委員会」という。）がその権限に属する事務の管理及び執行の状況について行う点検及び評価（以下「点検及び評価」という。）について、必要な事項を定めるものとする。

(点検及び評価の実施)

第2条 点検及び評価は、毎年、その前年度に教育委員会が実施した事務事業のうち、教育行政の推進上重要な重点施策について行うものとする。

2 点検及び評価を行うに当たっては、教育に関する学識経験を有する者の知見を活用して自己評価結果を検証し、事務事業の改善に努めるものとする。

(結果の活用)

第3条 点検及び評価の結果は、教育施策の企画立案及び事業実施等において活用するものとする。

(報告書の作成等)

第4条 点検及び評価の結果は、報告書を作成して議会へ提出するとともに公表するものとする。

(庶務)

第5条 点検及び評価の実施に関する庶務は、教育学習部教育政策課において行う。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、点検及び評価の実施に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

④ 和歌山市教育委員会事務評価委員会の委員選任に関する要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、和歌山市教育委員会事務評価委員会条例（平成25年条例第49号）第3条第2項について定めるものとする。

(委員)

第2条 第3条第2項に規定する教育に関する学識経験を有する者は、次に掲げる者とする。

- (1) 和歌山大学教授またはそれに準ずる者
- (2) 和歌山信愛女子短期大学教授またはそれに準ずる者

2 第3条第2項に規定する教育委員会が必要と認める者は、次に掲げる者とする。

- (1) 公立幼稚園PTA連合会を代表する者
- (2) 小学校PTA連合会を代表する者
- (3) 中学校PTA連合会を代表する者
- (4) 和歌山県私立中学高等学校協会の推薦する者

教育に関する事務の管理及び執行の状況の
点検及び評価に関する報告書
対象年度 令和元年度

令和2年10月

和歌山市教育委員会 教育学習部 教育政策課
和歌山市七番丁23番地
TEL 073-435-1135